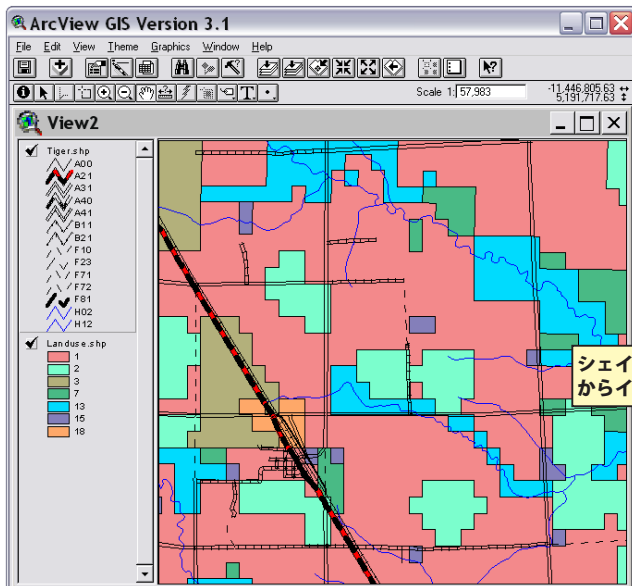


シェイプファイルのライン/ポリゴンスタイル

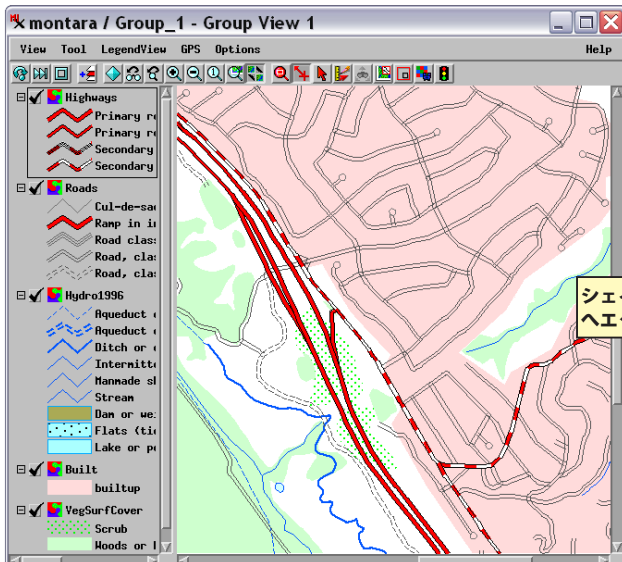
ベクタデータを ArcView 3.X シェイプファイルからインポートしたり、エクスポートする際、ラインやポリゴンのスタイルをそのまま保つことができます。シェイプファイルからインポートする際、付随する .AVL ファイル内に格納されているスタイル情報を自動的に識別し、TNTmips のスタイルオブジェクトに格納し、ラインやポリゴン属性に関連付けします。インポートしたベクタオブジェクトを表示する際、インポートしたスタイル (属性別スタイル) が自動的に使われます。

シェイプファイルへエクスポートする際、エクスポートするベクタ要素の種類 (点 / 線 / 面) や、その要素に関連付けられているプライマリ属性テーブル、スタイルテーブルを選択します。 (注意:TNTのベクタオブジェクトと違う

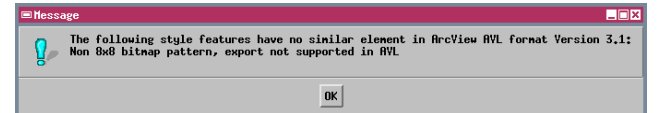
ArcView でスタイル付けされたポリゴンレイヤとラインレイヤ (下図)。それを TNTmips にインポート、表示したのが右図です。



TNTmips でスタイル付けされた5つのベクタレイヤ (下図)。それをシェイプファイルへエクスポートし、ArcView で表示しました (右図)。水涯線レイヤはラインとポリゴンの2回エクスポートしました。



て、シェイプファイル形式では一つのファイルに1種類の図形要素のみが許されます。一つのベクタオブジェクトからラインとポリゴンの両方をエクスポートする必要がある場合は、それらを異なるシェイプファイルとして別々にエクスポートする必要があります)。スタイル情報はシェイプファイルに付随する AVL ファイルに書き込まれます。TNTmips のスタイル要素のうち、ArcView のスタイルと



して利用できないものもあります。その場合、エクスポート処理はそのスタイル名と一緒に警告メッセージを表示しますが、有効なスタイル情報のエクスポートは続きます。更に ArcView ではラインスタイルの構成要素 (例えば線幅と破線の長さ) の相対的なサイズに TNT とは異なる規則を使用しているため、TNT のスタイルを正確に再現するには ArcView のスタイルを調整する必要があります。

